

ボランティア・ビューロー窓口には、多くのボランティア情報を用意しています！お気軽に足を運んでください。

## 9/21~ 北海道胆振東部地震義援金募金活動

平成30年北海道胆振東部地震への義援金募金活動を9月21日(金)から上智大学各所で行いました。課外活動団体Cross Artsの活動収益からの寄付金、上智大学フューチャーセンタープロジェクトのチャリティーカフェ収益金もそれぞれお寄せ頂き、総額231,392円の義援金が集まりました。内訳は以下のとおりです。

- メインストリートでの募金活動 **35,961円**
- 募金箱 (カトリックセンター/学生センター) **30,004円**
- 課外活動団体 Cross Arts からの寄付金 **100,000円**
- 上智大学フューチャーセンタープロジェクト チャリティーカフェ **65,427円**

全額を日本赤十字社を通して、被災者の方々の支援に宛てられるよう送金させていただきます。皆様のご支援に心より感謝申し上げますと共に被災者の方々の1日も早い復興をお祈り申し上げます。



## 10/15~19 防災WEEK2018

### 10/15(月) KEEP (熊本地震経験プロジェクト) 講演会

熊本大学の留学生が体験した熊本地震の体験を講演しました。被災時に起きた外国人の困り事を日本人も学習する良い機会となり、日常的なコミュニティの大切さを痛感しました。



復興支援企画として第4回となる防災WEEKが課外活動団体ソフィアボランティアネットワークの主催で開催されました。この機会に防災意識を持って欲しいと、様々なイベントや配付物を用意して、参加者を募りました。

### 10/17(水) 起震車体験



### 10/16(火) VR災害体験

今年4月に東京消防庁が導入したVR体験車がやってきました。8名が一度にVRによる災害体験ができる車輻で水害被害の体験をしました。シートが動いたり、水しぶきがでたり、ヘッドセットから感じられる音や映像以外の演出で水害を疑似体験しました。



### 10/18(木) 煙ハウス

(左) 煙ハウス体験者に配布した防災手ぬぐい。参加者はこの手ぬぐいで口元を押さえて煙の中を進みました。手ぬぐいには非常時の必須アイテムなどの情報が印刷されています。

### 10/19(金) ローリングストック料理教室

知らぬ間に賞味期限切れになってしまう非常食を美味しく食べて、新しい非常食を保存するローリングストック法を紹介しました。実際に、さんまの蒲焼缶とアルファ米を使って巻き寿司を作りました。防災WEEK最終日は楽しく美味しく非常食を食しました。



～さんまの蒲焼 de 海苔巻 レシピ～  
防災WEEK 企画

1. 縦めに切ったご飯に寿司酢を回し、かけて切るように混ぜておく  
きゅうりは、縦に6～8等分細長に切る  
(ここまでは事前に準備してあります)
2. 海苔の上に酢飯を敷き、白ごま・さんまの蒲焼・きゅうり・大葉を並べる
3. 一気に巻き上げて上から押さえる
4. 両端をカットし、6等分に切って盛り付ける

[Rules]  
・手洗いとうがいしよう！  
Wash your hands before cooking.  
・調理器具の取り扱いには十分に気を付けよう！  
Be careful when you use kitchen utensils.

調理を楽しくしながら防災意識を高めよう！

## 10/9 浜松啓陽高校での、熊本地震写真の展示

昨年度のボランティア・ビューロー復興支援企画枠として採択された『熊本は知るばいプロジェクト』の一環として、学内で2018年2月に展示した熊本地震の写真が静岡県私立浜松啓陽高校から文化祭での展示希望があり、写真提供元の熊本県立第二高校の快諾の上、プロジェクト代表者の大久保宙希君(情報理工学科・3年)とボランティア・ビューロー職員が浜松啓陽高校を訪問し、パネルを届けました。熊本第二高校→上智大学→浜松啓陽高校と、熊本地震を忘れない、という想いが繋がりました。



## 10/25 過疎地の活動 (南三陸) 活動報告会

夏期休暇中に宮城県南三陸町にて漁業体験、民泊での町民との交流、里山見学などを通して、震災からの復興状況や、地域活動の担い手不足について、持続可能な集落地域づくりをどのようにおこなっているか視察、体験するプログラムを実施しました。



南三陸 “過疎地”での暮らしを通じて、復興と日本の未来を思い描く 2018  
漁業・民泊体験をしてみませんか？

人口減少や高齢化が進み、さらに震災で人口流出が加速して過疎化が進む地域では、これからの日本が抱える問題が先に見られていると言われています。主に地域活動の担い手不足が課題となっており、持続可能な集落地域づくりを進めていくうえで、今後どのような対応が必要になるか実際の漁業体験などを通じて考えてみませんか？  
また、農村漁村の持つ日本独自の本来の価値、自然の中での豊かな暮らしを民泊を通して、再発見しましょう。

(左) 漁業体験 (中) 里山の見学 (右) 募集ポスター

10月25日(木)、参加者23名がグループにわかれて、以下の課題について考え、活動の振り返りとともに、SSICにてポスターを発表しました。

- ・南三陸の魅力とは何か？その魅力をどのように伝えるか？
- ・交流人口・移住人口を増加させるにはどのような方法があるか？
- ・漁業について。その後継者を増やすにはどのような方法があるか？

### 発表の一部



- ・復興の中において、持続可能な街をめざしたまちづくりがされている。特に漁業体験では、養殖場の数や牡蠣の大きさなどを実際に見ることができ、とても印象に残った。私達が普段生活している中でこうした漁業や農業などに直接関わることは少ないが、例えば認証(南三陸町では、海の環境の証であるASC認証を2016年に取得している)を獲得した商品を積極的に購入するなど、私たちが出来ることがあるのではないかなと思う。
- ・このプログラムでは農山漁村の持つ日本の価値、自然の中での豊かな暮らしを再発見することができた。
- ・地域に暮らす人々との強い結びつきを民泊でのお話などを通して実感した。